

ふりがな

きくたに かずひろ

氏名

菊谷 和宏

1. 学歴

- 1991年 3月 一橋大学社会学部（社会理論課程）卒業
1991年 4月 一橋大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程入学
1993年 3月 同修士課程修了
1993年 4月 同博士後期課程進学
1994年 10月 同博士後期課程休学。フランス国立社会科学高等研究院（EHESS）DEA 課程入学
1995年 10月 同 DEA 課程休学。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程復学
1998年 3月 同博士後期課程単位取得退学
2004年 12月 一橋大学大学院社会学研究科にて論文博士（社会学）取得

2. 職歴・研究歴

- 1998年 4月 和歌山大学経済学部講師
2000年 4月 和歌山大学経済学部助教授
2008年 4月 和歌山大学経済学部教授
2016年 4月～ 一橋大学大学院社会学研究科教授

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部学生向け

社会科学概論Ⅰ、社会学史、社会の構造と変動Ⅰ、社会研究入門ゼミナール

（b）大学院

社会学、社会科学研究の基礎

（B）ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

- 1) 19～20世紀西洋社会学史・社会思想史研究（主としてフランス語圏）、2) 東アジアにおける社会概念の解明（西洋との比較において）、3) A. de トクヴィルの著作翻訳

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

- ・デュルケーム/デュルケーム学派研究会著・中島道男他編『社会学の基本 デュルケームの論点』, 学文社, 2021
（分担部分：「Ⅰ 社会と人間への視座 1. 社会的事実」, 2021）

- ・ Shin ABIKO et al (éds), *Considérations inactuelles: Bergson et la philosophie française du XIXe siècle*, OLMS, 2017 (分担部分: «Du Fondement Humain et Transcendant de la Démocratie Moderne chez Tocqueville et Bergson», 301-310)
- ・ 平子友長他編『危機に対峙する思考』, 梓出版社, 2016 (分担部分: 「世俗の祈りとしての実証科学: 社会における事実をめぐる」, 153-171)
- ・ 『「社会」(コンヴィヴィアリティ)のない国、日本: ドレフュス事件・大逆事件と荷風の悲嘆』, 講談社, 2015
- ・ 『「社会」の誕生: トクヴィル、デュルケーム、ベルクソンの社会思想史』, 講談社, 2011
- ・ 新原道信他編『地球情報社会と社会運動: 同時代のリフレクシブ・ソシオロジー』(共著), ハーベスト社, 2006 (分担部分: 第Ⅱ章第4節 社会とその外部: 社会的生の意味, 62-80)
- ・ 『トクヴィルとデュルケーム: 社会学的人間観と生の意味』, 東信堂, 2005
- ・ 大野道邦編『フランス社会学理論への挑戦』(日仏社会学叢書第2巻)(共著), 恒星社厚生閣, 2005 (分担部分「第五章 デュルケームとベルクソン: 超越への実証科学的アプローチ — 普遍性の再建に向けて —」, 105-133)
- ・ フォーラム哲学編『言葉がひらく哲学の扉』(共著), 青木書店, 1998 (分担部分: 「規制された、甘く、平穏な隷従: アレクシス・ドゥ・トクヴィル『アメリカの民主主義』」, 283-285)

(b) 論文

- * 「社会という事実の規範性あるいは社会という規範の事実性について: 「共に」と「生きる」の和解のために — トクヴィル、デュルケーム、ベルクソン、そして再びデュルケーム —」『社会学史研究』第40号(特集 社会学理論の最前線—社会—), 7-31, 日本社会学史学会, 2018.6
- ・ 「永井荷風と日本社会: 続・永井荷風のフランス受容とその社会思想的含意」『和歌山大学経済学会研究年報』第18号, 53-76, 和歌山大学経済学会, 2014.9
- ・ 「永井荷風のフランス受容とその社会思想的含意」和歌山大学経済学会研究年報』第17号, 31-61, 和歌山大学経済学会, 2013.9
- ・ 「身体・他者・社会: 生の社会学への道標」『和歌山大学経済学会研究年報』第16号, 99-117, 和歌山大学経済学会, 2012.9
- ・ 「『模倣の法則』におけるタルドのトクヴィル言及に関する覚書」『和歌山大学経済学会研究年報』第14号(和歌山大学経済学部設立60周年記念号), 565-576, 和歌山大学経済学会, 2010.9
- * 「トクヴィルにおける二つのアソシアシオン」『社会学史研究』第32号, 15-28, 日本社会学史学会, 2010.6
- ・ 「社会科学における身体論のための素描 ~ 現実の一意性を支えるもの、または現実と自己意識のユニークネスについて ~」『経済理論』第352号, 23-45, 和歌山大学経済学会, 2009.11
- ・ 「共に生きるという自由について(上・下) — 生の社会学への展望: トクヴィル、デュルケーム、ベルクソン」『思想』第1010号・第1011号, 35-55・148-181, 岩波書店, 2008.6・2008.7
- * 「トクヴィルとベルクソン: 近代民主主義の人的/超越的基盤」『日仏社会学年報』第16号, 89-112, 日仏社会学会, 2006.12
- ・ 「小林秀雄「感想」についての試論(1・2)(1: ベルクソン持続論による物質理論と量子力学・2: 物理学と社会理論)」『経済理論』第333号・第336号, 47-72・19-34, 和歌山大学経済学会, 2006.9・2007.3
- * 「デュルケームにおける社会学と生の意味」『日仏社会学年報』第12号, 1-21, 日仏社会学会, 2002.12
- * 「トクヴィルにおける人間観の歴史的形成」『社会学史研究』第21号, 75-86, 日本社会学史学会, 1999.6
- * 「トクヴィルとデュルケーム: 社会学的人間観の歴史的形成過程」『社会学評論』第49巻第2号, 2-17, 日本社会学会, 1998.9
- * 「トクヴィルにおける自由の条件としての道徳的同質性」『年報社会学論集』第10号, 1-12, 関東社会学会, 1997.6
- ・ 「コンピュータネットワークにおける共同体性について: その実証と理論的意義」『平成6年度~平成8年度科

学研究費補助金（総合研究 A）研究成果報告書（課題番号 06301020） 環境・開発問題と地域社会発展の諸条件に関する実証的研究』第 6 章, 65-75, 一橋大学矢澤修次郎研究室, 1997.3

- ・「一橋大学矢澤研究室 CMC (= Computer Mediated Communication) 調査の全体像：個別調査の概要と相互の論理的連関」『平成 6 年度～平成 8 年度科学研究費補助金（総合研究 A）研究成果報告書（課題番号 06301020）環境・開発問題と地域社会発展の諸条件に関する実証的研究』第 5 章, 54-64, 一橋大学矢澤修次郎研究室, 1997.3
- * 「デュルケームの民主主義論：理論構築の観点から」『一橋論叢』第 114 巻第 2 号, 192-211, 一橋大学一橋学会, 1995.8
- * 「『市民派』の政治参加とその構成：東京都東久留米市の市民運動を例に」（共著）『一橋論叢』第 113 巻第 2 号, 21-40, 一橋大学一橋学会, 1995.2
- * 「デュルケームにおける社会学の経験科学性と社会統合」『年報社会学論集』第 7 号, 213-224, 関東社会学会, 1994.6

(c) 翻訳

- ・『社会学的方法の規準』（原著：Emile Durkheim, *Les règles de la méthode sociologique*, 1895）, 講談社, 2018
- ・『ラールス社会学事典』（共訳）（原著：Larousse, *Dictionnaire de la sociologie*, 1995）, 弘文堂, 1997

(d) その他

- ・尾関周二他編『哲学中辞典』, 知泉書館, 2016（執筆項目：「トクヴィル」）
- ・日本社会学会社会学事典刊行委員会編『社会学事典』, 丸善, 2010（執筆項目：「アソシアシオン—トクヴィル」）

B. 本研究科着任後の研究活動（着任 2016 年）

(a) 国内外学会発表

- * 「再訪『社会学的方法の規準』：新訳上梓にあたって」, デュルケーム／デュルケーム学派研究会研究例会ミニシンポジウム報告（パネリスト）, 2018.4.14, 東京文京大学
- * 「社会という事実の規範性あるいは社会という規範の事実性について：「共に」と「生きる」の和解のために—トクヴィル、デュルケーム、ベルクソン、そして再びデュルケーム—」, 第 57 回日本社会学史学会大会シンポジウム『社会学理論の最前線—社会—』報告（パネリスト）, 2017.6.25, 広島大学
- * 「再考 価値判断と事実判断 ～フランス社会学誕生史から生の社会学へ～」, 一橋大学社会学共同研究室主催社会学セミナー, 2016.11.16 一橋大学

(b) 国内研究プロジェクト

- ・科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か：デュルケーム社会学を事例として」（研究分担者）, 独立行政法人日本学術振興会, 2015.4-2019.3
- ・科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 「ポスト 3・11 の危機からみる〈理性〉〈欲求〉〈市民社会〉の再審」（研究分担者）, 独立行政法人日本学術振興会, 2013.4-2016.3

C. 受賞

- ・第 6 回日本社会学史学会奨励賞受賞（『トクヴィルとデュルケーム—社会学的人間観と生の意味』に対して）, 日本社会学史学会, 2005.6.25

6. 学内行政

(B) 学内委員会

紀要（一橋社会科学）編集委員（2016年10月～2018年9月）

学生委員（2017年4月～2019年3月）

ハラスメント相談員（2017年4月～2020年3月）

オープンキャンパス委員（2020年4月～2021年3月）

(C) 課外活動顧問

坐禅サークル「如意団」顧問教員（2021年4月～現在）

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

2005年4月 放送大学非常勤講師（2005年9月30日まで）

2007年10月 放送大学非常勤講師（2008年3月31日まで）

2009年9月 パリ・ディドロ（パリ第七）大学招聘研究員（2009年10月22日まで）

2009年10月 ユーロメッド・マネジメント - マルセイユ・マネジメントスクール客員研究員（2009年11月22日まで）

2015年4月 放送大学非常勤講師（2015年9月30日まで）

(b) 所属学会および学術活動

日仏社会学会 理事（2009年～現在）

日本社会学会

日本社会学史学会

東アジア社会学会

社会学系コンソーシアム 評議員（2018年～現在）

デュルケーム／デュルケーム学派研究会

ベルクソン哲学研究会

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

愛知県立千種高校にて出張講義（2019年6月24日。2020年HQ誌掲載）